

交通ちば



VOL. 400 平成23年9月1日

千葉県交通安全活動推進センター
(財)千葉県交通安全協会連合会

平成23年 秋の全国交通安全運動

期 間 9月21日(水) から 9月30日(金) までの10日間
交通事故死ゼロを目指す日 9月30日(金)

目 的 日没時間が急速に早まる秋口は、夕暮れ時や夜間の交通事故の増加が懸念されます。また、歩行中の高齢者の交通死亡事故が多く発生しています。そこで、秋の行楽シーズンを控えたこの時期に、県民一人ひとりが交通ルールの遵守と交通マナーを実践し、交通事故防止の徹底を図ることを目的に実施します。



スローガン ～ 夕暮れは 早めのライトに 反射材 ～

**重点目標
と
推進事項**

1 子どもと高齢者の交通事故防止

子どもと高齢者自身の交通安全意識の高揚を図るとともに、職場・家庭・地域ぐるみで子どもと高齢者に対する保護意識の醸成を図ることで、交通事故を防止します。

2 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗車中の交通事故防止

視認性が低下し、重大事故や死亡事故が多発することが懸念される夕暮れ時や夜間の交通事故を防止します。

3 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

シートベルトの着用に係る活発な啓発活動を展開し、交通事故発生時における被害の防止、軽減を図ります。

4 飲酒運転の根絶

運転者をはじめ広く県民に対し、飲酒運転の悪質性・危険性、交通事故の悲惨さを訴えて、「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない」という気運を醸成し、職場、家庭、飲食店等県民総ぐるみにより飲酒運転を根絶します。

安全運転 ひと口メモ



高齢者の交通死亡事故が多発しています。その多くは道路横断中や自転車乗車中に発生しています。高齢の歩行者などを見かけたら一時停止や徐行するなどして、その通行を妨げないようにしましょう。

「思いやり」と「ゆずり合い」の気持ちで安全運転を心がけましょう。

第44回二輪車安全運転全国大会

千葉県チームが初の団体優勝



表彰式後、壇上で喜びの一枚

ライダーの安全運転技能と交通マナーの向上を図り、二輪車の交通事故を防止しよう、と昭和43年から開催されている「二輪車安全運転全国大会」が8月6、7日に三重県の鈴鹿サーキットで開催され、千葉県チームが初の団体優勝を果たしました。主催は(財)全日本交通安全協会・二輪車安全運転推進委員会、後援は内閣府・警察庁・文部科学省・全国二輪車安全普及協会など。

第46回交通安全子供自転車全国大会

松戸市立小金小が団体の部5位入賞、
島原寿伸選手が個人優勝

(財)全日本交通安全協会・警察庁主催、内閣府・文部科学省・日本放送協会・朝日新聞社等の後援による「第46回交通安全子供自転車全国大会」が8月3日、東京・江東区のビッグサイトで開催されました。

千葉県からは7月に行った県大会で、大会史上初の8年連続優勝した松戸市立小金小学校が

出場し、団体の部では5位入賞、個人の部では島原寿伸選手が学科、実技とも満点で優勝を果たしました。4人1チームの構成で同小の本田悠人、石川真理恵、段上耀選選手も好成績をあげ健闘しました。

学科テストでは、道路交通法等に定められた交通ルール、道路標識等自転車に安全に乗るた



選手と応援してくれた皆さんと一緒に

めの決まりなどについて計60問が出題されました。実技テストでは、安全走行テストと技能走行テストが行われ全国44チーム、176人が競技に挑みました。小金小の選手や保護者、先生、松戸交通安全協会の役員に見守られて張りつめた空気の中、ペダルを踏んでスタート。信号機のある交差点とない交差点での右左折、踏切や横断歩道を通ってゴール。技能テストでは、遅のりやS字、ジグザグ、デコボコ道等のコースを走行し自転車の乗り方の習熟度を競い、日頃の練習の成果を披露しました。

大会には全国44都道府県の選手174人が参加し、法規履行走行やスラローム等の技能走行の10の課題に挑戦しました。千葉県からは5月に行った県大会を優秀な成績で通過した速永慎太郎選手、千葉市美浜区(一般Bクラス)、長谷川毅選手、大網白里町(一般Aクラス)、小杉幸枝選手、市川市(女性クラス)、中村永選手、鋸南町(高校生クラス)の4選手が代表として出場しました。

鳥走行、傾斜地走行、悪路応用走行など2日間にわたって行われた競技は次第に難しく高度になって選手の技量が問われました。

これまで千葉県チームには個人クラス優勝や団体上位入賞がありませんでしたが、団体優勝は初めてで44回目にして悲願達成の大会になりました。

競技終了後、表彰式が行われ、千葉県チームは壇上で優勝旗や金メダル・表彰状を授与されました。また、クラス別では速永選手が3位の銅メダル、長谷川選手と中村選手が5位、小杉選手が7位と全員が入賞しました。

8月23日現在県内の交通事故発生状況

区分	累計	前年比
発生件数	14,373件	-1,839件
死亡事故件数	108件	+2件
死者数	108人	-3人
負傷者数	17,775人	-2,409人

*発生件数、負傷者数は概数です。
*数字は平成23年1月1日からの累計です。

交通死亡事故の特徴

○高齢者の死者が多い

死者108人のうち40人が高齢者で占められ、このうち28人が歩行中、5人が自転車乗車中に亡くなっています。

○ボンヤリ運転が多い

死亡事故の原因となった違反別で最も多いのは脇見等の35件、次が安全不確認の16件となっています。

また、信号無視が10件、速度超過、直前右折等、歩行者妨害等がそれぞれ7件など、無謀運転の増加が目立っています。

○シートベルト着用率が低い

四輪乗車中の死者26人中11人(42.3%)がシートベルト非着用でした。

当会は、昭和24年4月に発足し、昭和26年9月に財団法人として認可され、以来60年が経ちました。この節目に、これまでの交通安全活動を写真で振り返ってみました。

昭和20年代



初めて実施された「交通安全週間」のポスター



交通整理風景 (昭和24年)



千葉市幕張付近
各地の交通安全パレード



印西



一宮

昭和30年代



第1回交通安全県民大会 (昭和37年8月19日)



第1回交通安全子ども自転車大会 (昭和39年9月)

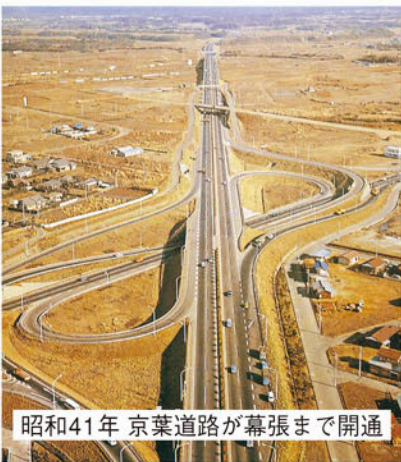


秋の全国交通安全運動時
県庁前に並んだ白バイ



県庁前に着いた東京オリンピックの
聖火 (昭和39年10月)

昭和40年代



昭和41年 京葉道路が幕張まで開通



交通安全協会に婦人部が発足 (昭和43年 八日市場)



高齢者の交通事故防止を図る「黄色い杖」の贈呈式 (昭和44年9月)



飲酒運転追放婦人団体総決起大会 (昭和45年8月)



二輪車安全運転コンテスト
第1回千葉県大会 (昭和46年9月)



婦人部連絡協議会結成大会 (昭和47年7月)

昭和50・60年代



交通安全地域総ぐるみ大会
(佐倉)



創立25周年記念式典
(昭和52年9月)



自転車安全教育指導者講習会
(昭和54年3月)



海水浴客に対する冷やし
タオル作戦(館山)



交通安全キャラバン隊出発式



交通指導員制度発足20周年・婦人部結成
10周年記念式典(昭和57年12月)



交通安全教室発表会
(昭和62年 旭安協婦人部の発表)



セフティフラワーズ
二輪車女性指導員誕生
(昭和61年4月)



千葉県運転免許センターオープン
(昭和61年4月)

平成



地域交通安全活動推進委員
委嘱式(平成3年4月)
思いやり
みんなで広げる交通安全



ライダーフェスティバル・インちば(平成4年)



原付講習の義務化(平成4年)



創立50周年記念式典(平成13年10月)



交通指導員研修会(平成20年)

各地の交通安全活動ニュース

交通安全協会の活動にご協力いただきありがとうございます。会員の皆様の会費は、地元の交通安全協会ボランティア活動に活用されています。



市原 辰巳台地区で啓発物を配り交通事故防止を呼びかける。



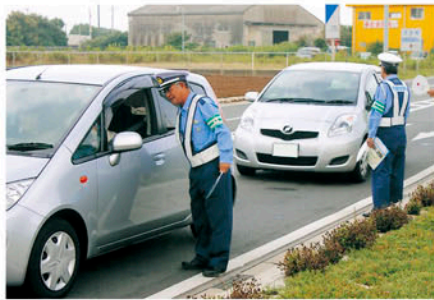
松戸 馬橋北小学校で自転車の安全教室を開催し啓発する。



千葉中央 本町小学校で自転車の安全教室を開催し啓発する。



南総 米沢交差点で啓発物を配り安全運転を呼びかける。



銚子 国道126号線三崎町交差点で街頭啓発活動を行う。



千葉東 小倉台の交差点でさわやか作戦と名付けた活動を行う。



木更津 イオン木更津店前で自転車の安全利用を訴える。



匝瑳 市民ふれあいセンターで高齢者の安全教室を開催する。



千葉北 国道16号線で啓発物を配り安全運転を呼びかける。



館山 夕日海岸ホテル前で恒例の冷しおしほり作戦を行う。



山武 松尾町で県警音楽隊の演奏などで交通安全を訴える。



行徳 胡録神社祭礼の雑踏整理を警察や消防などで行う。



千倉 北朝夷交差点で啓発物を配り安全運転を呼びかける。



いすみ 御宿海水浴場で帰路の安全運転を呼びかける。



浦安 さくら通りで全席シートベルト着用の街頭広報を行う。

我孫子交通安全協会



小嶋 榮一 会長

■小嶋会長の話
「管内総面積はおよそ44平方キロメートルで、人口は約13万6千人。JR常磐線、成田線、地下鉄千代田線と鉄道網が充実しています。」

管内の中心部には国道6号線と356号線、市道の手賀沼ふれあいラインが縦断・並走しています。

手賀沼沿いに県立印旛手賀沼自然公園、我孫子市鳥の博物館「山階鳥類研究所」、手賀沼親水広場「水の館」などがあり、自然環境に恵まれていてバードウォッチングが満喫できる所もたくさんあって、市民の「憩いの場」になっています。

交通事故は減少傾向にあります。死亡事故が7月末現在4件4名となつてしまふ前年同期はゼロだったことを思うと残念でなりません。引き続き各種交通事故防止活動等を通じ、死亡事故抑止と交通事故の発生を1件でも減少させるべく力を尽くしたいと思っています。



左から 由利アヤ子さん、風戸正事務局長、中田幸子さん

いつも各種活動を一生懸命やってくれる交通指導員の方々には感謝しています。」

■風戸事務局長の話

「当協会の窓口は警察署の入口にありますので、来訪者に可能な限り笑顔で「一声かける」ことを心掛けています。窓口業務にあたっては、「笑顔と親切・丁寧」をモットーに対応し、カウンターの端にシートベルト見舞金制度と交通安全協賛店の広報パネルを交互に掲出し、協会の活動内容等を説明して入会者の拡大に努めています。」

交通安全活動の一環として、毎月15日の自転車安全の日、警察署の指導をいただきながら市職員、交通指導員、推進委員と管内の県立我孫子高等学校と中央学院高等学校の教諭・生徒とともに、「自転車通学者を対象に『自転車安全指導』を数年前から実施しています。」

『自転車事故を無くすために』
遺族・被害者、マナーアップ隊の手記
軽自動車とぶつかった事故

君津市市 61歳 女性

私は、ある日の昼間、近所のスーパー銭湯に自転車で出かけた時、横断歩道を信号機の青色表示に従って自転車で渡っていたところ、右折してきた軽自動車にはねられ、自転車とともに転倒し、右手に4週間の怪我を負う事故に遭いました。

この事故で私は、救急車で木更津市内の病院に運ばれ、右手関節部挫傷などで、4週間の診断を受けました。事故による怪我のため、事故に遭う前は当たり前のようにできていた家事が思うようにできなくなり、今現在も、とても不自由な生活をしています。事故に遭う前は、何の不自由もなく、当たり前のようにやっていた家事や生活が、ほんの一瞬の事故による怪我でできなくなり、普段の健康や安全のありがたさを痛感しているところです。また、この怪我で、足の擦り傷が痛く、お風呂も満足に入れない状態です。幸いにして命に別状がなかったことだけが唯一の救いでした。

車を運転していた相手の方は、事故の当時から私に真摯に謝ってくれており、反省もしているようなので、相手方個人に対しては特に思うことはありませんが、この事故を通じて一つだけ思うことは、

「相手の方（運転者）は、どうしても横断歩道を自転車でも渡っていた私に気がつかなかったのだろうか」ということです。何か考えごとをしていたり、安全確認ができなかった理由があると思います。

私は、あのとときの事故のことが恐怖心として心に残ってしまい、事故後も横断歩道を渡っていると「また、車が急に来てぶつけられるのではないか」という恐怖を覚え、横断歩道を渡るのが怖くなつてしまいました。

交通事故は、このように身体的な不自由だけでなく、精神的な苦痛も多く、何一つ良いことはありません。この事故を担当してくれた警察の方から、君津警察署の管内では事故の発生件数や事故によって怪我をされている方が昨年比べて増えていると聞きました。

また、この手記の話をいただいた時、千葉県内では、自転車乗車中に交通事故の被害に遭い亡くなっている方も沢山いると聞きました。

車を運転する方は当然ですが、ハンドルを握っているときは、交通ルールを守り、安全確認をしっかりととして、事故のないようにしてもらいたいと思います。それと私を含め自転車車を運転する側も、自転車のマナーや交通ルールをしっかり守り、事故に遭わないようにしてもらいたいと思います。

みんなが気をつけて事故のない街にできたらと思います。

（財）千葉県交通安全協会連合会発行
『自転車事故を無くすために』より）

